



医師常勤4名非常勤2名、看護師15名、社会福祉士4名、ケアマネジャー、介護福祉士、相談支援専門員
医療事務、医療クラーク、保育士、栄養士、作業療法士、歯科衛生士、理学療法士、言語聴覚士
臨床心理士、臨床宗教師、プロデューサー、ミュージシャン、コミュニケーションスタッフ



みんなの保健室

16

2013年7月 福井駅前新栄商店街内に開設
(東京新宿・暮らしの保健室-秋山正子代表-を参考に、
福井らしい“保健室”を模索した。
新栄商店街を中心にまちづくりを行う仲間からの
後押しで構想からわずか4ヶ月で開設に至った)



日常生活の中で気軽に立ち寄りなんでも相談できる“集い場”として、体・こころ・暮らしの相談だけでなく、誰かと話したいと立ち寄りの方、ひとやすみする方など、年齢性別問わず多くの方が利用。
開設2年目の年間利用者 約1800名

2015年1月～ ダイハツとのコラボ開始
在宅医療におけるクルマの使用され方の研究
地域包括ケアシステムにおける企業の役割について討議

2015年9月 福井市宝永に2番目となる「みんなの保健室 supported by ダイハツ」を開設

「みんなの保健室」の目的を共有し名称と
ロゴマークの使用を希望する方(個人,団体)とは
“のれん分け”として連携。

現在、敦賀市・石川県輪島市の2カ所に
のれん分けした保健室がある。

Mission:
地域における主人公である“人”や“お店”“組織”の
繋がりにから生まれる安心感を地域で育む居場所づくり



医療ケアが必要な重度心身障害児者に特化した日中利用施設

事業名:児童発達支援事業、保育所等訪問支援、放課後等デイサービス、生活介護、相談支援事業

2012年4月

高校卒業後の通える場所がなくなった心介くんのために「心介くんだけが週3回通う施設」として実験的に開設
→すぐに地域中にニーズがあることがわかる(2016年8月現在 登録30名)

2015年4月 一般社団法人化

7月~8月 軽井沢キッズケアラボ開催

2016年4月~7月 熊本地震支援(避難している医療ケア児へのサポート、医療ケア児施設開設支援)

7月~8月 軽井沢キッズケアラボ2016開催

医療法人との濃密な連携(診療面・ケア方針・看護師の配置)により、安全・安心でかつ成長を視野に入れた活動ができている
重心児施設として注目されている

Mission: ①インフラレベルでの医療サポート②本人と家族の成長を見つけ出すこと③地域をつくっていくこと

高齢化社会への対応策のように言われる“地域包括ケア”であるが
病気の付き合い方として医療モデル(病気は隔離して治しきる)から
生活モデル(病気と付き合いながら幸せに暮らしていく)への
変化が求められており、結果的には地域に暮らす全ての人・企業が
含まれるシステムである。まさに「まちづくり」といえる。
障がいを持っていても子どもたちがHappy!に暮らしていける地域を
創ることは、高齢者や認知症にも対応できるまちづくりである。




こんな初めて!新しい家族旅行体験

軽井沢キッズケアラボ

そろそろ、みんなで軽井沢に行こう。

軽井沢キッズケアラボって何? ■オープン期間

★医療ケアが必要な障害をもった子どもたち(キッズ)のためのスペースです。

2015年 **7月26日**(日)
~**8月16日**(日)
@軽井沢(長野県)

軽井沢に滞在型のケアスペースとして **18**
期間限定でケアラボ(重心児日中活動拠点&
宿泊拠点)を設置

福井のキッズの滞在型旅行の滞在場所として
だけでなく地元・長野のキッズや、東京から
避暑に来ているキッズも対象に受け入れた

※キッズ:医療ケアが必要な重心児

運営は地元の医療者などボランティアが中心

全国の医療・ケアスタッフや、重心児の家族など
が参加し、先進事例に学び、交流する“キッズ
ケアサミット”も同時開催

Mission:

・できないこと探しではなくできること探し
・非日常のリゾートで、日常のように“暮らす”
体験を元に、障害を持って生きる日常を再考
→地域住民の受け入れも広がった

2015年に参加した長野県佐久市の関係者が、
翌2016年夏に期間限定のケア施設を設置する
ことが決定した!(ハッピードミノ展開)

2016年は軽井沢町が拠点となる施設を提供。
利用キッズのべ148名

(福井キッズ70名,軽井沢町在住キッズ 57名
ほか佐久市,杉並区,新宿区,大田区,さいたま,
愛知からもキッズが利用。うち135件は障害
者サービスとして利用)

オレンジホームケアクリニック・オレンジキッズケアラボ 熊本支援内容
「熊本・医療ケアが必要な子ども・家族の支援」



派遣日程
2016年4月27日～7月31日（8月1日現在）

派遣人数
医師3名、看護師6名、保育士3名、理学療法士1名、介護福祉士1名、社会福祉士1名のべ123人・日

状況

- ・ 人工呼吸器、痰の吸引など医療ケアが必要な子ども等が、熊本県内外の病院や療育センターに一時的に避難している。また、避難所、車中泊の家族も確認されている。
- ・ 医療的ケアが常時必要なため、自宅損壊確認や自宅復帰作業が困難な状況となっている。

支援概要

- ・ 医療ケア、内部障害などで困っている方々の相談支援
- ・ 入院中の子ども、避難している子どもの医療ケア（付き添い）支援と帰宅に向けた家族支援
- ・ 子どもの療育支援と親のレスパイト支援
- ・ 在宅生活を支える訪問診療、看護、介護の実施
- ・ 医療的ケアが必要な児に対応出来る施設の立ちあげ支援

支援内容

- ・ 4月27日～5月8日 入院中の子どもへの付き添い、キャンプ場での活動支援・療育支援、避難所に向かう活動支援・療育支援、今後の生活についての相談支援
- ・ 5月1日～6月30日 熊本市民病院（機能停止）の構内に、医療ケアが必要な重症心身障害児対応の日中一時支援施設「ことごとキッズランド」立ちあげ・運営支援
- ・ 7月1日～ 熊本市内に重症心身障害児対応の児童発達支援・放課後等デイサービス施設「ばんぷきん」立ちあげ・運営支援

非日常の状態（小児・障害+震災）であっても日常（生活=遊び、友だち）を支えると
“子どもらしさ”を取り戻した子どもたちは周囲を笑顔にし、家族や地域を支える姿があった





在宅医療虎の穴



地域看護ステーション

みかんの木

訪問看護ステーション

【地域看護ステーション みかんの木】

地域と対話し、予防的なアプローチを行う「みんなの保健室」や在宅診療全体をコーディネートする「トータルヘルスプランナー」というアプローチを確立してきたオレンジナースたちがオランダのビュートゾルフに刺激をもらって化学反応を起こし誕生しました。予防から看取りまで時間軸を大切に、地域に根ざして教育アプローチも行っていく、そんなチームを目指します。



医療介護の多職種連携を、実践的に楽しく学ぶ勉強会【在宅医療虎の穴シリーズ】劇団による事例提示に対し、地域の多職種が集まりケアチームを結成し、実際に「その人らしい生活」を支えるケアを考えていくスタイルの実践的研修会。全国の研修会へ展開中。

訪問介護ステーション

【ライフサポートチーム これていいのだ。】

日々の診療や「Orange Kids' Care Lab.」の活動を通して、病気や障害によって生活スタイルが変わっても、医療に支えられた生活にならないように、その人にとって大切なものや人生の輝きにスポットライトを当てて「その人らしさ」を支えることが最も重要と確信しました。その人の日々の生活、成長、人生、想いを支える介護チームを目指します。

外来ベースの地域包括ケア診療

【地域包括ケアクリニック つながるクリニック】

住み慣れた地域で安心して暮らしたい。そのために大切なことのひとつは「健康」です。身体の不調やけがだけでなく、生活や将来の不安にもじっくりと耳を傾け、一人ひとりにあった過ごし方を一緒に考えていきたいと思えます。地域のかかりつけ医として幅広い診療を心がけ、どんなことでも相談にのれる、そんなクリニックを目指します。



ライフサポートチーム

これていいのだ。



つながるクリニック

Tunagaru Clinic

オレンジホームケア
クリニック

Orange Home-Care Clinic

2016.10.27.

紅谷 浩之 専門：在宅医療・地域医療



福井市出身、2001年福井医科大学卒
 福井県立病院、福井医科大学救急総合診療部にて 救急・総合診療研修
 福井県名田庄診療所、高浜町和田診療所などにて 地域医療 研修・実践
 2011年2月、福井初の在宅専門クリニック・オレンジホームケアクリニック開設
 2012年重度心身障害児者日中活動拠点「Orange Kids' Care Lab.」開設
 2013年福井駅前にまちかど健康相談スペース「みんなの保健室」開設
 2015年夏、軽井沢キッズケアラボ、キッズケアサミット初開催
 2016年外来をベースに地域包括ケア診療を行う「つながるクリニック」開設
 2016年4月～7月熊本地震 医療ケア児に関わる支援 スタッフ派遣
 2016年7月18日～8月19日軽井沢キッズケアラボ2016開催
 ・2012年度在宅医療連携拠点事業
 ・2015年度人生の最終段階における医療体制整備事業

福井大学医学部臨床講師
 日本在宅医学会認定専門医
 在宅医療推進のための会 委員
 日本プライマリケア連合学会認定指導医
 日本在宅ホスピス協会 世話人
 全国在宅療養支援診療所連絡会 理事
 日本在宅医学会認定専門医育成プログラム
 「在宅医療が得意な医師養成プログラム・ふくい」プログラムコーディネーター
 福井市介護サービス事業者連絡会 副会長
 福井の在宅医療を支える会 世話人
 福井県緩和医療研究会 幹事

beniya@orangeclinic.jp